

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

市町村名	三好市
------	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
いきいき百歳体操を実施する 通いの場活動を展開する。	住民主体の介護予防教室を推進することで、地域活動を広げながらフレイル予防を行う。	(58)	目標	(61)	(62)	65団体	地域の住民が主体となって「通いの場」で、いきいき百歳体操を継続して行っていただいた。また、年1回理学療法士及び保健師が介入し、フレイルチェックを行った。適宜、健康教室も実施。	○	通いの場活動は継続して行っていただく。なお、これまでのフレイルチェックは測定評価により指導していたが、今後は体組成計を導入し、科学的な評価も行っていき、より効果的な指導を行えるようにする。
		58団体	実績	61団体	62団体				
認知症サポーター数	地域や職域において認知症サポーターを養成し、サポーターにより、地域の見守りを強化することで、認知症のみならず、高齢者とその家族が抱える問題等に対し、適切な窓口につなぐ等、気づき役・つなぎ役を担えるよう図る。	(2700)	目標	(2900)	(3100)	3400人	(2021年度) 認知症サポーター養成講座172人受講(累計2,926人) (2022年度) 認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ研修を実施。サポーター養成講座259人受講(累計3,185人)	○	引き続き、認知症サポーター及びステップアップ研修を実施し、地域で認知症とその家族の方を支える活動に取り組んでもらえる人材を育成していく。
		2,747	実績	2926人	3185人				
オレンジ(認知症)カフェ等を開催する。	認知症の人やその家族が地域の人や専門家と気軽に出会える場がない。相互に情報を共有しお互いを理解し合う「認知症カフェ」等の設置を推進していく。	(8)	目標	(10)	(12)	18回	(2021年度) 毎月のオレンジカフェに加え、認知症ミニカフェを10回開催。 (2022年度) 「辻のいろり」をオレンジカフェの拠点として実施。コロナ過で飲食はしていなかったが、簡易なお茶を提供。オレンジ相談会も各支所単位で10回開催。	○	「辻のいろり」での毎月のオレンジカフェは継続実施。各支所で実施したミニカフェやオレンジ相談会の参加者がかなり少なかったため、2023年度は山城地区の「いきいきサロン山城」で開催する。
		8	実績	カフェ12回 ミニカフェ10回	カフェ12回 相談会10回				
認知症の方に対する早期診断・早期対応のための体制づくりを実施する。	住み慣れた地域で生活を続けるためには、認知症の高齢者等への専門職の早期の関与等が重要と考えられる。早期診断・早期対応のための体制づくりを構築していく。	(1)	目標	(1)	(1)	1回	(2021年度) コロナ禍のため、書面会議での開催。チームの取り組み状況や対応、施策について分かりやすく報告。 (2022年度) 対面方式で情報を共有。継続事業が減らないことなどを報告。	○	認知症関連で関与する方は年々増加。医療や介護サービスに繋がらない継続ケースは定期的に訪問している。令和3年10月から「つながろう三好ネットワーク事業」を開始し、地域住民の認知症に関する理解を広げながら、地域での見守り活動や相談窓口の充実など、認知症の方やその家族の孤立を防ぎ支援する体制を構築している。
		1	実績	1回	1回				
生活支援等サービスを提供するボランティアとなるための研修等を実施する。	今後は地域の介護の担い手不足が深刻化してくる。地域の生活支援ニーズと地域の元気な高齢者の活動をマッチングさせる取組を推進していく。	(6箇所)	目標	(6箇所)	(6箇所)	(6箇所)	(2021年度) 三好市第2層協議体の活動を支援し、地域の見守りの担い手を養成する三好市生活支援サポーター養成講座を市内6箇所で開催した。 (2022年度) 6地区にある第2層協議会と年3回の協議を重ねた。養成講座は募集をかけたが定員に満たず、集約しての開催となった。	○	生活支援サポーター養成講座を継続して開催していく。今年度も6カ所開催を目指す。募集しても参加人数が増えなくなっているため、地区によっては合同開催を目指す。
		6箇所	実績	6箇所	1箇所				

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
住民主体の自主活動として行うサービスBを実施する。	多様な日常生活上の困りごと等に対応するために、地域全体で共通の意識を持ち、地域にあった新たなサービスを創出できるよう支援していく。	(6箇所)	目標	(6箇所)	(6箇所)	(6箇所)	(2021年度)2020年度より市内1地区1箇所を通所B(緩和型)が開始され、継続している。(2022年度)実施団体が増えるよう各種会議で事業説明。	○	通所型サービスB及び通所型サービスBの各1地区が所休止状態。ただ、2022年度は新しい地区でサービスが開始となった。今後についても、活動団体の数を増やしていけるよう地域の方々との協議を行っていく。
		5箇所	実績	6箇所	5箇所				
地域ケア会議を開催する。	他職種で検討することにより有効な解決手段等を導き、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うことで重度化防止や自立支援につなげていく。		目標	9回 (地域ケア会議2回、個別地域77会議6回、自立支援型77会議1回)	9回 (地域ケア会議2回、個別地域77会議6回、自立支援型77会議1回)	9回 (地域ケア会議2回、個別地域77会議6回、自立支援型77会議1回)	(2021年度)三好市地域包括ケアシステムの推進の一つとして協議してきた「つながろう三好ネットワーク」を立ち上げ、2021年10月に三好警察署と協定を締結。 (2022年度)地域包括ケアシステム構築方針の中間報告。三好市権利擁護センターの設置について協議	○	事例(個別地域ケア会議)の共有と学びを通して充実した会議を開催していく。地域ケア会議で、すべての高齢者の方を含む住民が、孤立することなく地域で自分らしい生活を続けるための地域包括ケアシステムの仕組みづくりを構築していく。
		9回(地域ケア会議2回、自立支援型ケア会議1回、個別地域77会議6回)	実績	8回 (地域ケア会議2回、個別地域77会議6回、自立支援型77会議0回)	6回 (地域ケア会議2回、個別地域77会議3回、自立支援型77会議1回)				
自主グループ活動を行っている団体等に対して介護予防についての支援を実施する。 (地域介護予防教室、地域いきいき事業等)	自主活動を行っている団体等に対して介護予防について啓発等を行うことで、介護予防に対する意識を高めて、介護予防につなげていく。		目標	20箇所	21箇所	22箇所	(2021年度)地域の自治会、老人クラブ、婦人会等において、介護予防教室(体操、生活習慣病等)を実施。 (2022年度)前年度と同様。	△	コロナ過が収束したことから、活動再開のために各種団体に声をかけ、介護予防活動を啓発していく。
		10箇所	実績	12箇所	12箇所				
全居宅介護支援事業者にケアプラン点検を実施した保険者数			目標	16保険者	18保険者	20保険者			
		14	実績	15保険者					
多職種との連携による住宅改修の点検を実施した保険者数			目標	7保険者	10保険者	13保険者			
		6	実績	6保険者					